

私は今回の研修で沢山の貴重な体験をさせていただきました。

フランスの高校生との交流会、ディスカッションでは、自分の思っていることを積極的に話すことができました。特に、私が興味のある車のエネルギーについての話を出来たことが嬉しかったです。とても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

フランスの高校生は原子力発電所で何かあった時のために、避難訓練をしているということを知りました。日本では聞いたことがないのでとても驚きました。

彼らは原子力発電に対して、日本人のように強い恐怖心をあまり持ってないように思いました。親が原子力発電所で働いているという生徒がとても多かったです。両親共に働いているという生徒も少なくありませんでした。親が働いている生徒曰く、原子力発電所があることによって、自分達の生活が助けられているということもあるので、ただただ反対だとは言えないということでした。

福島第一原子力発電所の事故についても話しました。フランスでもこのニュースは、長い期間話題になったそうです。このニュースを見て、原子力発電に対して、恐怖を感じたという人もいました。

私はこのディスカッションで、日本人とフランス人の、原子力発電への意識の違いを感じました。日本人は、原子力発電所がとても厳重な安全管理をしているのを知っているのでしょうか。私は見学に行くまで、どのような安全対策がされているのか、具体的に知りませんでした。きっとほとんどの日本人は、何がどのように怖いのか、こうだから反対だ、というように、反対の理由をきちんと言えないと思います。原子力発電所が、どのような安全対策をしているのか、そして、普段どれだけ厳重な管理をしているのか知るべきだと思います。賛成することが全てではありませんが、はっきりとした理由もなく反対するのは良くないことだと思います。どのように怖いのか、どうだから反対なのか、ということをもう一度考えるべきだと思います。

スウェーデンは、環境についてとても深く考えている国だと思います。道が氷で凍っていたり、雪がつもっていたりするのに、自転車で移動している人がとても多いことに驚きました。自転車を売っている店も沢山あって、意識の高さがわかりました。

フランスの高校生とは1日しか交流できませんでしたが、スウェーデンの高校生とは3日間交流しました。1日目の夕食会では、高校生とは初対面でした。夕食会で、うまく話せるか少し不安でしたが、高校生は日本語を話すのがとても上手で、日本語で会話できてしまうことにとても驚きましたし、日本が好きだという人が沢山いて、とても嬉しかったです。

スウェーデンのエネルギー事情について分かったことは、スウェーデンの原子力発電所は、硬い地盤を活かしていますし、地震がほとんどないので、日本のように地震による危

険性が低いです。その土地に合った発電方法を使うことが出来るのは、とても素晴らしいことだと思いました。

今の日本は、ほとんどの電力を火力発電で補っています。火力発電は、燃料を輸入していますし、二酸化炭素の排出量が多いです。このことから私は、火力発電に頼り続けることをあまり良く思っていないです。これは、環境問題について深く考えているスウェーデンの高校生にとっても、とても大きい問題だと感じるようでした。

今のままでは、日本は他の国からみて、ただ二酸化炭素を排出しているだけの国になってしまいます。早く解決しなければならないと思います。火力発電を少なくし、原子力発電の割合を多くするという政府の考えを実現するには、やはり原子力発電の安全管理や、設備について知ってもらわなければならないと思います。そして、全ての発電方法をうまく組み合わせたベストミックスという発電方法の組合せができればいいのだと思いました。

日本は、福島第一原子力発電所の事故により、原子力発電に対して怖いという気持ちが染み付いてしまいました。しかし、その事故をきっかけに沢山の厳しい基準や、新たな安全装置など、さらなる改善がされています。これは、もっと知られるべきことだと思いますし、知られることによって、意識が変わるかも知れません。私はもっと沢山のの人に原子力発電について知って、意見を持ってほしいと思いました。